

Q：家畜のいない湯沢町が広域行政家畜診療所業務委託料を支払う訳は。

A：ニワトリを飼育している家庭はある。鳥インフルエンザ情報と対策の利用、猿に発信器を取付るため捕獲時に使用される麻酔等で、診療所を利用している。

Q：農産物への猿の被害が拡大して、猟友会では手弁当で駆除に当たっている。有害駆除対策に補助できないか。

A：猟友会には出勤数に応じ有害鳥獣駆除事業の委託料で支払っている。熊の捕獲・処分には町担当者も一緒に行動している。この事業が早く進むよう努めて行きたい。

Q：湯沢ICの看板付近は草木が繁茂して観光地湯沢の景観上好ましくない。町観光協会などを通して草刈り出来ないか。

A：関連団体と協議して草刈りを検討する。

町長への一括質疑

Q：税と使用料金に滞納や未収金が多いものの21年度決算の状況は良好から5億3,280万円を繰越した。13年度の病院建設時にも4億円繰越した経過をたどったことがあるが、当時より景気は悪い。町長は一流の田舎町を目指しているが、

町経済に効果的な予算を充てべきではないか。町づくりをどう感じているのか。

A：徴収率が良く5億3,280万円の繰越があった。必要なおとりに予算を回さなかったところがあるかもしれない。調整して対応していきたい。私の一流の田舎町はバイオスタウン構想の早期実現、環境保護、教育環境の整備と定住促進であります。町内人口は減り、若者が町から出ている状況から

企業誘致に向け動いているものの、思いどおりに進まないが一生懸命取り組んでいきたい。

Q：マンションに上下水道の接続、福祉介護等大きな問題がある。今定住促進を見直す必要がある。定住者600人に高齢者が多い。リゾートマンションは定住には向いていない。二地域暮らしの推進をしているが、人口8,300人の町に定住促進をどういう方向にもっていくのか。

A：マンションに高齢者が居住し解らないうちに亡くなっていることがないように、マンション管理組合と手を取り合って解決したい。ゴミ問題は23年度から改善していきたい。大変厳しい社会・町内の状況ですが、皆さんの意見を聞きながら真剣に取り組んで行きたい。

Q：予算を見ていく中での検討

材料に国保で所得が下がって、値上げを考えなければならぬ。高齢化率が30%になるうとして。若者がいない、就業の場が無い、町づくりを真剣に考える時期に来ている。定住促進にマンションの高齢者が増えて、将来的にはいろんな問題を抱えることになる。マンション組合と諸課題について対応を話し合うべきだし、この問題を工場誘致に切り替え見直ししたらどうか。

A：就任以来、その原因である若者の働く場をと常々言われている。いま厳しい状況にあるが、常にそういう思いで町づくりに取り組んで行きたい。

Q：職員研修で政策立案能力を養成しているが町内担当制を担うまでには至っていない。町長答弁である。20年度の研修費予算が180万円で決算額が25万円、21年度で90万円の予算に対し47万円の実績となつている。研修の成果は評価者研修である。研修の成果が組織全体には見えてこない。どういった形の研修を行うのか。

A：必要なものは一緒に研修すべきと考えている。総合事務組合だけの研修でいいのか、産業観光課から海外研修の要望があったので許可した。成果の上がる研修とするため来年度から見直ししていきたい。

Q：マンションのごみ問題と指導要綱、町の憲法として町民を守るための法律である。下水道の接続の件で管渠の能力に問題があったが、この度解消の報告があった。水道の給水量の件からマンションを取り込むことで解決される。ごみ問題を含めプロジェクトチームを作って指導要綱の改正が必要である。

A：建設ラッシュで対応できなかったリゾートマンションが、20年経過しようとして今外装工事をしている。要綱の点検見直し、下水道水道の問題、ゴミの問題等マンションから喜ばれ、指摘を受けないようにしていきたい。

Q：収納体制の維持を図り税収の確保で18年度から4年間最高の税収を得ている。スタッフ体制を維持せよ。

A：税務課の努力、バブルから税収個人の名前を見る機会がある。公平平等の原則を守るよう、県と一緒に成果が上がっている。

Q：童画美術館の建設は雪国館を増築して対応するとなると、東口が衰退してしまう。柴町通りが道路改良でいい街並みができる。童画美術館を造ることで活性化が生まれる。

A：東口側には観光施設がなく、シャッター通りである。町づく

り検討委員会の意見が出ている。よく意見交換したい。

Q：駅中のバリアフリー化が遅れている。地下駐車場から駅舎へアクセスするエレベーターの設置、早急に設置するよう働きかけ願いたい。

A：駅のバリアフリー化で手すりはある。エレベーターが必要。

Q：石川遼選手が河口湖で湯沢の素晴らしさを語っている。これをきちつと対応していかないとだめだ。

A：明日は石川遼選手の誕生日でゴルフ大会、これからはジュニアからチャリティゴルフ大会、ヨネックス大会、記念館に関して石川選手の父と連絡を取り合つて配慮していきたい。湯沢に懲りないよう取り組む。

Q：水田農業対策事業いわゆる転作事業は、昨年は100%転作できなく農業政策では補助制度なくして成り立たない。今後はどのような対応を。

A：水田農業は転作率が足りなく他県から余りを回してもらった。補助金なしでは成り立たない。

